

福井県スポーツ推進計画 改定(案)に関する  
県民パブリックコメント意見の概要と県の考え方

全 般

	ご意見	県の考え方
1	新幹線開業とともに、スポーツの分野でも新しいことにチャレンジして行ってほしい。	地域スポーツコミッションによるスポーツツーリズムの推進をはじめ、新しい施策に積極的に取り組みます。
2	計画には、色んな施策が掲載されていますが、これらを着実に実施していただきたいと思えます。その結果として、福井国体で培った本県の競技力の維持・向上が図られることは勿論、子どもからお年寄りまで県民がスポーツを楽しむことで、健康で楽しい人生が送れることを希望します。	各施策の実施にあたっては、関係者の方々の意見を十分に伺いながら進めていきます。
3	1-5の県内トップチームの箇所や、2-2地域の協力を得た運動部活動の推進や、3-1, 2選手を強化する体制づくり、指導者の育成と確保など、話し合いをしながら進めてほしい。	
4	基本施策のⅠ、Ⅱ、Ⅲは、その分野の方々に直接質問され、得られた情報からの目標と具体的施策を検討して頂きたいと思えます。	各分野の機関・団体の方々に構成する県スポーツ推進審議会において、ご意見をいただきながら、目標や具体的施策を検討しています。
5	福井は天候が悪く、スポーツをみる期間や場所が限られる。楽しく快適にスポーツ観戦できる施設の整備を含めて考えていただきたい。	福井国体に向け整備した施設を活かして、大会やイベントを誘致・開催し、県民の皆様にはスポーツ観戦を楽しんでいただける機会を増やします。新たな施設整備については、建設費や維持費の確保など十分な検討が必要です。

「基本施策Ⅰ. 1県民1スポーツ」関係

	ご意見	県の考え方
6	オリパラに向けた機運醸成とあるので、身近に感じることができる聖火リレーも盛り上げてほしい。	聖火リレーについては、県内全市町において、県民の皆様から公募で選ばれたランナーに走っていただくとともに、多くの皆様にボランティアや沿道の応援で参加いただきたいと考えています。
7	スポーツコミッションをきっかけに福井県全体でスポーツを盛り上げてほしい。	県、市町、スポーツ団体、経済団体、観光団体、大学、報道機関等の関係団体が一体となって、スポーツを通じた交流人口の拡大・地域活性化を図っていきます。

8	福井県でもプロ野球、Jリーグをもっと開催してほしい。	県民の皆様にスポーツ観戦を楽しんでいただける機会が増えるよう、関係機関に働きかけていきます。
9	福井国体でも障スポ大会との融合があったように、東京パラリンピックも含めて、今後も障がい者スポーツを盛り上げていってほしい。	障がい者スポーツの普及拡大や選手育成を図るとともに、障がいのある人とない人が共にスポーツに親しむ機会を増やしていきます。
10	今回の改定は、福井県の実情に沿った、非常に考えた計画だと感じます。 今回の計画では、総合型地域スポーツクラブの県内の数を目標からはずし、総合型地域スポーツクラブ会員数に着目し、目標値を変更したところは、県民のスポーツへの参画を正確に推し量る上でも、良い変更点だと思います。	国の第2期スポーツ基本計画においても、総合型地域スポーツクラブの質的充実が示されており、福井県としてもクラブの質的充実を図りながら会員数増を目指していきます。
11	トップチームのサポート・応援について、県民チームの応援団やファンが、特定のチームに集中することなく、5つのチームのそれぞれの試合の観戦や応援に、みんなが行く工夫が必要ではないか。(例えばスタンプラリーなど)	プロチームやプロ化を目指すチーム、全国規模のリーグで活躍するチームを、県民の皆様に地域の宝として応援していただけるよう機運を盛り上げるとともに、それぞれの試合会場に応援に行くきっかけとなる仕組みを検討していきます。
12	私の高齢者という視点から申し上げますと、1-3高齢者や障がいのある人のスポーツ参加の促進がありますが、高齢者の健康維持促進をして頂き、医療費の削減につなげて頂ければと思います。	高齢者の方にやさしいスポーツの紹介や体験教室の開催などを通して、スポーツをする機会を増やし、一年を通してスポーツを楽しんでいただき、健康維持、健康寿命の延伸につなげていきます。
13	福井らしい魅力のあるフルマラソン大会の開催を期待しています。	関係機関と検討委員会を設置し、福井県らしい魅力あるフルマラソン大会の開催を目指して検討を進めます。

「基本施策Ⅱ．子どもの体育・スポーツ活動」関係

	ご意見	県の考え方
14	部活動の在り方について、地域によって盛んな競技があるなど、学校の状況や、生徒の思いにもしっかりと耳を傾けて、慎重に進めてほしい。	地域や学校の実情、生徒の思いを踏まえつつ、持続可能な運動部活動の在り方について、市町教育委員会や中・高体連、地域のスポーツクラブ等と連携し、検討を進めていきたいと考えます。
15	体育の授業でトップアスリートが来て、演技や指導をしてもらおうと、子どもたちもインパクトが残り、スポーツをする子どもの裾野が広がると思う。	トップアスリートから正しい走り方や投げ方、跳び方等を学ぶとともに、ハイパフォーマンスの披露によって、子どもたちの運動への関心・意欲を高めることができるよう、今後もトップアスリートの派遣を継続していきたいと考えます。
16	学校体育の充実は素晴らしいと思いました。低学年から充実させてほしいと思いました。	運動神経系の発達が顕著な小学校低学年の子どもたちが、多様な動きを経験したり、個に応じたアドバイスを受けたりすることで、存分に運動の楽しさを味わうことができるよう、次年度も補助指導者の派遣を継続していきたいと考えます。

「基本施策Ⅲ．トップアスリートの養成」関係

	ご意見	県の考え方
17	福井国体で、天皇杯・皇后杯をとったのは、とても感動した。今後も頑張ってもらいたい。	福井国体での選手強化の過程で得た有形・無形の「経験、人材、ノウハウ」をレガシーとして継承・発展させ、長期的な選手確保、育成・強化のサイクルを形成し、本県からトップアスリートを輩出できるよう、競技力向上対策を進めていきます。
18	女性アスリートのサポートが新しく入っているのがよかった。	福井国体に向けた強化の中で行った女性アスリートへのサポートについても、ニーズを踏まえながら実施していきます。
19	例えば、県の綱引きチームが全国大会で優勝するなど、国体正式競技以外のレクリエーション的なスポーツであっても、競技力向上に頑張っている団体がある。こういったスポーツについても、光をあてて応援していく体制づくりをしていく必要があるのではないかと。 ※レクリエーションスポーツの観点ではなく、競技力向上の観点より	競技力向上対策予算については、国体正式競技の強化のための予算となっております。なお、スポーツ推進計画の目標数値「競技スポーツの全国大会での上位入賞数(1～3位)」については、国体正式競技以外の競技も含め、福井県スポーツ協会の正加盟団体の競技も対象としております。
20	競技力向上を図るために、地域において高い資質を持った教員がその能力を発揮できるような体制づくりが必要である。	県内の競技指導者の大部分は教員であることから、運動部活動を地域スポーツクラブ等に移行する際には、指導を希望する教員が指導に当たることができるよう検討を進めていきます。
21	福井国体が終わり、市町のスポーツ施設は市町管内のグループの優先利用など、国体選手が利用し難くなってきている。競技力向上を図るうえで施設の優先利用は、重要な課題であるため、市町に強く働きかけていただきたい。	福井国体に向けては、特別に市町の全面的な協力を得て、県選抜チーム「チームふくい」の練習場所の優先利用を認めていただきました。今後は、市町の事情も加味し、競技団体の意向も聞きながら、大会直前などの練習場所の確保に努めていきます。